

令和5年度 認定こども園東光寺幼稚園教職員自己評価結果

1. 教育目標

- ・だれとでも遊べるやさしい子ども
- ・自分で考え工夫する子ども
- ・最後までやり遂げる子ども

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

★重点教育目標 自分で考える子ども

- (1) 子どもが意欲的に遊びを進めるための環境の構成
- (2) 乳幼児一人ひとりが自己発揮するための関わり方
- (3) 同僚性を高める園内研修の実施
- (4) 教職員・乳幼児の安全対応力を高めるための「ヒヤリハット」活用
上記に添った「取組指標」と「成果指標」を使って、各教職員が学期ごとに自己評価を行なった。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理由
(1) 環境の構成	A	子ども達からアイデアを出して楽しむ様子が出てきている。
(2) 子どもへの関わり方	B	子ども達が目的意識を持って遊びを続けるまでに、もう一歩という所である。
(3) 園内研修の実施	A	教育要領を用いて、子どもの気づき(育ち)について、共有し合うようになってきている。
(4) ヒヤリハット活用	A	保育者の立ち位置を意識し、声を掛け合って連携が活発になってきている。子ども達の怪我也減っている。

4. 今後の取組

- (1) 環境の構成
 - (3) 園内研修の実施
 - (4) ヒヤリハット活用
- このまま積極的に続けていく。

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

「3」の評価結果の表示方法

(2) 子どもへの関わり方

→ 「子どもの思い」と「保育者の意図」のバランスを取って、子ども同士が繋がっていけるように関わっていく。

→ 目的意識を持って遊びを続けていけるような援助の工夫をしていく。
(声掛け・遊び環境の整理や再構築)

(例1) 0・1・2歳児 手作りおもちゃ (月齢・興味・関心に応じて)



(例2) 3・4・5歳児 砂の増量 (歩く→登る・トンネル作りなど)

5月29日 (通りがかり)

6月24日 (目的をもった活動に)



認定こども園東光寺幼稚園*教職員自己評価報告書*令和5年度

令和5年度重点目標 自分で考える子ども

基準	取組指標	取組結果(1・2・3学期)	基準	成果指標	成果(1・2・3学期)
----	------	---------------	----	------	-------------

*子どもが意欲的に遊びを進めるための環境の構成

4	子どもの発達に即したものを環境としておく。	平均	平均	平均	4	自分たちでアイデアを出しながら、遊びを楽しむようになった。	平均	平均	平均
3	子どもが必要と感じたときにタイムングよく遊具・用具・素材等を提示する。	平均	平均	平均	3	環境として置かれたものからイメージを広げ、自分たちで遊びを作り出したり、発展させたりするようになった。	平均	平均	平均
2	子どもの遊びや興味・関心に応じた遊具・用具・素材等を準備する。	2.8	3.0	3.5	2	興味を持って繰り返し遊んだり、試したりするようになった。	2.8	3.0	3.4
1	外・室内・廊下・ウッドデッキ等、遊びを選べるコーナーを準備する。		↑	↑	1	興味を持った物を自ら選んで遊びに取り入れるようになった。		↑	↑

*乳幼児一人ひとりが自己発揮するための関わり方

4	子どもの思いと保育者の意図がパランスよく、そして、子どもたちが上手く繋がり合うよう関わる。	平均	平均	平均	4	友だちの思いを受け入れて、目的をもち、遊びが続くようになった。	平均	平均	平均
3	幼児理解したことに基づいて、子どもと関わる。	平均	平均	平均	3	友だちと気持ちを出し合いながら遊ぶようになった。	平均	平均	平均
2	保育の振り返りや記録から一人ひとりの子どもの内面を理解する。	2.7	3.0	3.3	2	自分の遊びに集中して遊ぶようになった。	2.7	3.0	3.2
1	トキメキ・ヒラメキ・気づき・発見を毎日見つける。		↑	↑	1	自分の遊びを見つけて遊ぶようになった。		↑	↑

*同僚性を高める園内研修の実施

4	日々の学年での時間の中で教育要領を用いて、幼児の発達について考えていく。	平均	平均	平均	4	保育の中で気づいたことや子どもの遊びが充実したことを伝え合うようになった。	平均	平均	平均
					3				
2	保育の振り返りで幼児の内面について考え、翌日の環境に生かす。	平均	平均	平均	2	学んだことを活かしている同僚の保育に関心を寄せるようになった。	平均	平均	平均
					1				
1	その日の保育について、学年で毎日振り返りをする。	2.7	2.8 ↑	3.0 ↑	1		3.2	3.4 ↑	3.4

*教職員・幼児の安全対応力を高めるために

4	保育の中で「ヒヤリ」「ハット」を感じたときに、幼児と一緒に安全について考える。	平均	平均	平均	4	子ども達の怪我が少なくなった。	平均	平均	平均
					3				
2	保育の中で「ヒヤリ」「ハット」を感じ、振り返りの中で記録する。	平均	平均	平均	2	子どもの動きをイメージしながら遊びを見守るようになった。	平均	平均	平均
					1				
1	安全計画に基づき、避難訓練等を行い、乳幼児の安全に対する意識を育む。	2.7	3.0 ↑	3.1 ↑	1		2.7	3.0 ↑	3.1 ↑